

令和4年度 公立大学法人 公立小松大学の取組みと業務運営の評価



令和5年8月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee

contents

はじめに		03
I 全体評価	総評	04
II 項目別評価		
(1) 教育・研究編	① 教育	05
	② 研究	07
	③ 国際交流	09
(2) 地域貢献編	① 地域貢献	11
(3) 法人経営編	① 業務運営	13
	② 財務	14
	③ 自己点検・評価/広報	15
	④ 施設・設備	16
	⑤ その他	16
III 資料		
(1) 公立小松大学の情報		17
	基本理念・教育理念/大学の学部・学科構成/組織図	
(2) 評価		19
	評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準	
(3) 用語解説		21
キャンパスマップ		22

公立小松大学校歌 光より速きわれら

なかにし 礼
千住 明
作曲 作詩

見よ 白山の頂を
若き 飛躍の舞台なり
学びの時を 愉しく修め
いざ羽ばたかん 自由の翼
世界は広し ならばなお
翔びゆけわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

海 永遠の時を打つ
若き 希望も無限なり
果てなき空に ゆるがぬ意志で
描け七色の 調和の虹を
理想は遠し ならばなお
挑めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

この命こそ 奇跡なり
汝 自身を 知りつくせ
高みに上り 高みを越えて
いざ身に浴びん 叡智の景色
真理は深し ならばなお
極めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学



はじめに

令和5年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことで、長らく続いた様々な制限から解放され、コロナ前の日常生活に戻つつあります。大学でも、対面授業や学外実習、国際交流などの教育研究活動に積極的に取り組んでおられますが、一方で、コロナ禍で急速に進んだデジタル化の流れを後戻りさせずに、効果的に大学の活動に取り組んでいくことが求められています。すなわち、アフターコロナにおいても、大学のDXを継続して推進していくことが必要です。

さて、来春には、いよいよ北陸新幹線小松駅が開業します。開業後には、新幹線駅に隣接する大学としての立地を活かし、北陸新幹線沿線の地域での学生募集活動を拡充させたり、学生の教育研究活動、企業との共同研究などの様々な交流の機会を創出したりすることで、大学の発展ひいては地域の活性化につながっていくことを期待しています。

また、令和4年4月には、大学院サステイナブルシステム科学研究科が開設されました。地域・国際社会の持続可能性への貢献を目指すため、計画している博士後期課程の開設に向けてさらなる準備を進めるとともに、令和5年度が最終年度となる第1期中期目標の達成のために、より一層の取り組みの推進をご祈念いたします。

小松市公立大学法人評価委員会 委員長

小松市公立大学法人評価委員会 委員

項目	氏名	所属 職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学 監事
委員	さとう けいいち 佐藤 恵一	金沢工業大学 教授
委員	なかやま けんいち 中山 賢一	小松マテーレ株式会社 名誉相談役
委員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会 理事長
委員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所 代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附属機関。法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う。

公立小松大学 中央キャンパス



全体
評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

令和4年度の公立大学法人公立小松大学の業務実績は、全体として中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

開学5年目となった令和4年度も、昨年度に引き続き就職内定率が100%となったことは大きな成果として評価できる。今後も引き続き卒業生の声を聞く機会を設ける等、学生のキャリア形成や就職支援活動に取り組んでいただきたい。

教育面では、看護師・保健師・臨床工学技士の国家試験合格率が全国平均を大きく上回ったことや、学生アンケートによる授業満足度評価も高い値を得ていることは評価できる。今後は、特に学習支援と関連した個々の授業評価アンケート項目を追加し、継続的な検討・改善を期待するところである。

研究面では、企業との共同研究など地域に開かれた研究活動を進めていく中で、共同研究・受託研究数が目標値を初めて達成できたことは大いに評価すべきである。

大学の構成では、大学院サステイナブルシステム科学研究科を新設し、専攻の垣根を超えた連帯と協働による教育研究体制を整えた。今後予定されている大学院博士後期課程の設置により完成される9年間の大学教育において、高度な専門性と研究能力を養うことのできる教育研究環境の充実を期待する。

8月の豪雨災害時にボランティアとして被災者支援を行ったことは、参加した学生にとっても得られるものがあり、大いに評価できる。今後も地域貢献には、教育面・研究面を含め広く積極的に取り組むことを期待する。

令和5年度は、第1期中期目標期間の最終年度となる。公立小松大学が開学した目的をはっきりと認識し、各分野のこれまでの評価結果を踏まえ、中期目標・中期計画の達成に向けて全力で取り組まれることを期待する。

項目別評価

項目	評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育 A 順調	S 特筆すべき進行状況
	② 研究 A 順調	A 順調
	③ 国際交流 A 順調	B 概ね順調
(2) 地域貢献	① 地域貢献 A 順調	C 要改善
(3) 法人経営	① 業務運営 A 順調	D 要抜本的改善
	② 財務 B 概ね順調	
	③ 自己点検評価・広報 A 順調	
	④ 施設・設備 A 順調	
	⑤ その他 B 概ね順調	

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 令和4年4月に、大学院サステイナブルシステム科学研究科を新設し、基本理念に掲げる「持続可能性」の実現に向けて、専攻の垣根を越えた連帯と協働による教育研究体制を整えた。
- 学生の授業評価アンケートを実施するとともに、その結果を担当教員及び各組織にフィードバックし、授業の改善・向上につなげた。教育指標に掲げる学生の授業満足度は4.27(5点満点)となった。
- 看護学科及び臨床工学科では、国家試験対策特別講座の実施や担当教員によるきめ細かいアフターフォローにより、国家試験の合格率は看護師98%、保健師100%、臨床工学技士100%となり、いずれも全国平均を大きく上回った。
- 物価高に対する経済対策として、日本学生支援機構の給付型奨学金の支給対象者96名に大学独自の支援として、図書カード1万円分を支給したほか、授業料免除や奨学金制度の周知、助言を行った。
- 附属図書館では、「石川県図書館情報ネットワーク」に参加し、石川県内の公共図書館の利用者が附属図書館の蔵書を利用できるよう、利便性の向上を図った。
- キャリアサポートセンターと学科、就職担当教員が連携し、学生の進路相談・対応にあたった。令和4年度卒業生の就職内定率は100%となり、2年連続100%を達成した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 大学院の開設は大いに評価できる。大学院教育の順調な展開・発展、「持続可能性」の実現に向けた取り組みに期待する。
- ◎ 学生の授業評価アンケートにおける授業満足度は毎年上昇しており、高い値として評価できる。学修者本位の教育の実施に向け、既存のアンケート項目の見直しや、卒業生へのアンケート調査など、意見を収集・分析し、検討・改善を期待したい。
- ◎ 各種国家試験では、保健師、臨床工学技士の合格率100%などいずれも全国平均を大きく上回ったことは大いに評価できる。
- ◎ 学生への経済的支援は、今後のためにも効果の検証が求められる。
- ◎ 就職内定率が2年連続100%であったことは評価できる。学習・進路・就職相談等に関し、教職協働体制の充実により、学生にとって相談しやすい環境づくりを期待する。

令和4年4月大学院サステイナブルシステム科学研究科開設

「生産システム科学」、「ヘルスケアシステム科学」、「グローバル文化学」の3専攻からなり、今後の地域・国際社会のサステイナビリティ(持続可能性)とその実現につながるシステム構築を担う人材育成を共通の目標とする。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R4年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R4目標値	実績	備考
志願倍率	志願者数 ／募集定員	最終年度	2倍以上	—	[5.9倍]	令和4年 5.9（一般7.0、推薦2.5） 令和5年 4.7（一般5.5、推薦2.3）
学生の満足度	5段階評価 （平均値）	毎年度	3.3	3.3	4.27	前期 4.29 後期 4.24
外国語能力 検定試験結果	国際文化交流学部 TOEICスコア （4年生平均）	毎年度	600点	600点	542点	
標準修業年限での 卒業者の比率	4年間で卒業した人数 ／当該年度入学人数	毎年度 （完成年度以降）	80%	80%	88.3%	
就職希望者の 就職率	就職者数 ／就職希望者数	毎年度 （完成年度以降）	90%以上	90%以上	99.5%	2023年3月末時点の就職内定率 100%
国家試験 合格率	看護師の合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	98%	全国合格率 90.8%
	保健師の合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	100%	全国合格率 93.7%
	臨床工学技士の 合格率	毎年度 （完成年度以降）	95%以上	95%以上	100%	全国合格率 85.4%
市民公開講座 開講数	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10 / 年	10 / 年	14	市民大学 11 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1
	教員参加数 ／年	完成年度以降	20人 / 年	20人 / 年	21人	市民大学 18 市民公開フォーラム 2 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0
市民による 施設利用度	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	227件	中央 56件（こまつ市民大学利用ほか） 粟津 171件（運動場利用ほか） 末広 0件
インターンシップ 参加者数	参加者数／年	毎年度 （3年目以降）	200人	200人	延べ209人	「学外技術体験実習」（生産） 73人 「インターンシップ」（国際） 65人 その他(授業外) 71人



大阪税関業務説明会（キャリアサポートセンター主催）

キャリアサポートセンターでは、企業見学、業務説明会、各種セミナーやガイダンス、面接練習会、業界別内定者交流会など、学年進行に応じた各種企画を実施し、学生のキャリア形成と就活支援を行うとともに、学生のニーズに応じた情報発信に努めた。

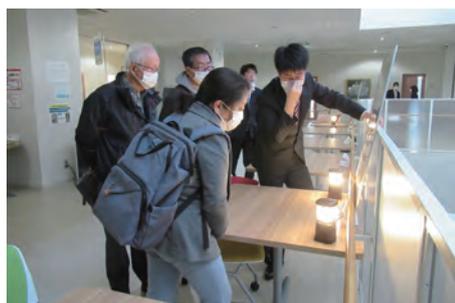
評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 各学科の特色を活かした研究に対して、研究助成金「研究発展・向上費」を交付した。
- 公立小松大学の「つよみ」となり得る分野横断型の研究を支援する「公立小松大学重点研究『つよみ』」の制度を新設した。
- アカデミックな雰囲気醸成や学部横断的な研究の推進を図るため、学内交流会「Salon de K」を毎月1回開催した。
- 地域連携とサステナビリティに焦点を当て、市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」を開催した。講演に加え、産学合同シリコンバレー研究参加企業による研修報告が行われた。
- 薬品管理について、学内にて使用する薬品の実態に応じた方針及びマニュアルを整備した。
- 教員の研究業績について、学会報告件数、論文・著書数、共同研究・受託研究実施件数、科学研究費・その他外部研究資金獲得件数はいずれも中期計画目標値を大きく上回る結果となった。



「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2022」

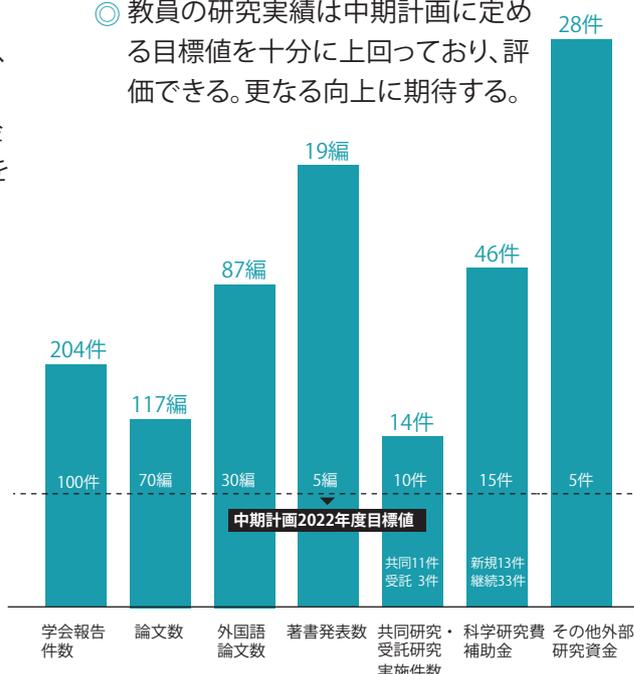
12/10(土)公立小松大学中央キャンパスにて開催。講演及びポスター発表により研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた協力体制の構築を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎大学の「つよみ」となり得る重点的研究支援制度の成果を発展させ、大型の外部資金の獲得に繋がるよう期待する。
- ◎大学院学生等の研究参画により、学生の研究力を向上させるとともに、より一層大学の研究成果があがるよう努めていただきたい。また、学生の優れた研究成果発表を支援する仕組みなど、学生の研究支援制度の充実に期待したい。
- ◎研究活動の発信のための各種取り組みが、地域の様々なニーズや課題解決に貢献できるよう努めていただきたい。
- ◎教員の研究実績は中期計画に定める目標値を十分に上回っており、評価できる。更なる向上に期待する。



教員の研究実績

数値指標の達成状況

項目	考え方 (指標)	達成年度	中期計画目標値	R4目標値	実績	備考
学会報告件数	報告件数/年	完成年度以降	100件	100件	204件	国内学会 148件 国際学会 56件
論文・著書数	論文数/年	完成年度以降	70編	70編	117編	日本語 30編 英語・ その他外国語 87編
	英語・その他の外国語 論文数/年	完成年度以降	30編	30編	87編	
	著書発表数/年	完成年度以降	5編	5編	19編	
共同研究・ 受託研究数	実施件数/年	完成年度以降	10件	10件	14件	共同研究 11件 受託研究 3件
科学研究費補助金等 獲得状況	科学研究費補助金 採択件数/年	完成年度以降	15件	15件	46件	新規 13件 継続 33件
	その他外部研究資金 採択件数/年	完成年度以降	5件	5件	28件	

市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」

11/19(木)サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオにて開催。総合地球環境学研究所 准教授 近藤康久氏による講演の他、小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科高山純一教授による講演、産学合同シリコンバレー研究参加企業の(株)小松製作所、小松電子(株)、藤井空調工業(株)による研修報告が行われた。学生や教職員、市民など約100名が参加した。



公立小松大学 市民公開フォーラム

地域連携により サステナビリティ を世界に発信

本企画に開催：地域の他のサステイナブル（持続可能な）とその発展につながるシステム構築を促す
 人材育成を目指す大学がサステイナブルシステム科学研究科を開設しました。
 本フォーラムにて、地域連携によりサステイナブルな未来の創造に向けた取組を話し、SDGsを達成する
 原動力に発信していきます。
 後援も賛助として併せて地域の社会貢献を、より良い未来をともに考えてみましょう。

日時 2022.11.19 sat.
14:30~16:30

会場 サイエンスヒルズこまつ
3Dスタジオ
〒923-8610 石川県小松市こまつ2-2-2

申込
<https://forum.u-fukui.ac.jp/2022/11/19/>
 申込みは右QRコードよりアクセスしてください。

入場 無料

※新型コロナウイルスの感染防止策により、開催内容の変更になる
 場合があります。あらかじめご了承ください。
 共催：公立小松大学・公立小松大学を支援する会
 後援：公立小松大学地域経済連携センター
 シーズ・ニュースマーケティングプログラム

Time Schedule

14:30	開会式 司会 山本 啓
14:35	「オープンチームシステム時代の地域に とどろく持続可能なサステイナブル」 講演 近藤康久 准教授
15:15	「SDGsアクションプラン、高度な技術革新、 デジタルトランスフォーメーションの 推進」講演 小松電子 代表取締役 貴山 裕貴 取締役 藤井 康正 代表
16:00	「地域経済を地域公共連携による 一歩、中核的経済圏の発展」 講演 高山純一 教授 協賛 小松製作所 代表取締役 藤井 康正 代表
16:25	閉会式 司会 山本 啓

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 7月に公立小松大学学長が金沢大学学長と共に中米のグアテマラ共和国及びホンジュラス共和国を訪問し、新たに協定2件を締結した。協定に基づき、金沢大学が設置したティカルリエゾンオフィス及びコパンリエゾンオフィスの共用を開始した。

※累計では18件

(大学間：10件、部局間：5件、その他機関：3件)

<新たな協定の締結>

- * グアテマラ共和国文化スポーツ省文化自然遺産副省
- * ホンジュラス国立文化人類学歴史学研究所

- 長期交換留学実績として、海外協定校へ学生9名を派遣するとともに、留学生12名の受け入れを行った。
- 短期留学実績として協定校等における海外語学研修や異文化体験実習等、計6件実施し、国際文化交流学科及び生産システム科学科の学生55名が参加した。
- 令和3年度に引き続き、保健医療学部の教員が主体となり、英語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした国際協力機構(JICA)の青年研修「地域保健医療」プログラムをオンラインで実施した。
- 地域の多文化理解の促進に向けた取り組みとして、「こまつ市民大学」で世界遺産検定チャレンジ講座やビジネス・時事英語読解力講座などを開講したほか、小松市国際交流協会と共催で英会話カフェを17回開催し、「国際都市こまつ」の発展に貢献した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ コロナ禍で制限されていた学生の海外派遣、留学生の受け入れが再開された。今後の国際交流の一層の促進を期待する。
- ◎ 協定締結校等との交流活動の展開が評価できる。協定締結校の少ない地域との更なる交流推進や、新たに開設したりエゾンオフィスの有効な活用、今後の教育・研究活動への発展を期待したい。
- ◎ 小松市が掲げる「国際都市こまつ」への様々な貢献は、大学が目指す世界で活躍する人材の育成にも合致している。小松市との一層の連携強化を図っていただきたい。

金沢大学・公立小松大学の共用オフィスを開設
(グアテマラ共和国・ホンジュラス共和国)

ティカルリエゾンオフィス(グアテマラ共和国)、コパンリエゾンオフィス(ホンジュラス共和国)はともに公立小松大学がマヤ文明遺跡に関する研究・教育の拠点として活用する予定。

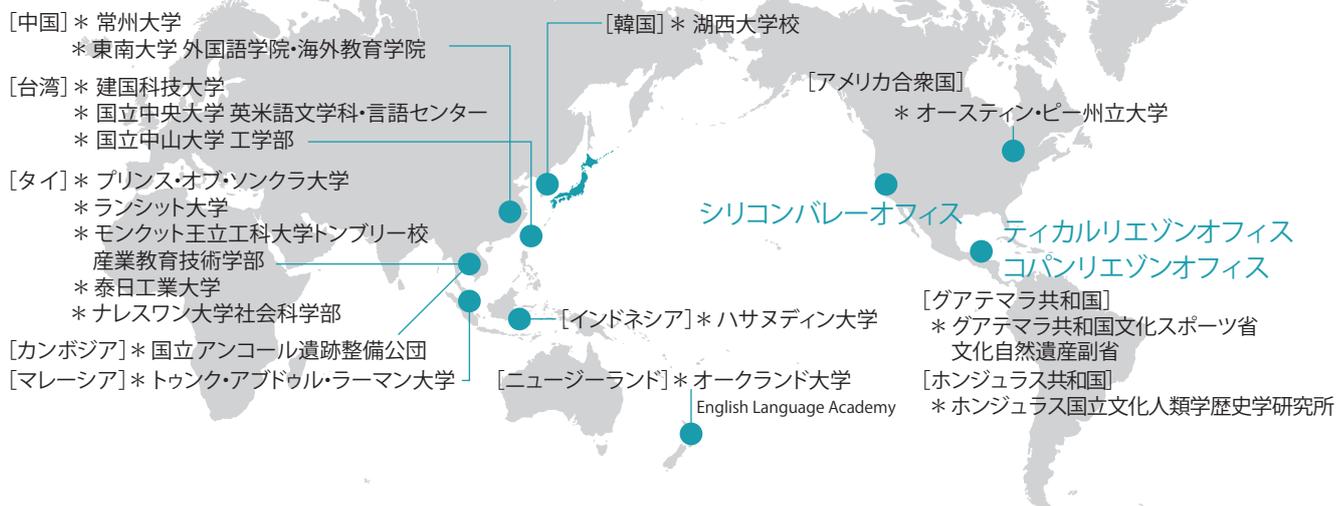


数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R4年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方 (指標)	達成年度	中期計画目標値	R4 目標値	実績	備考
留学生受入・派遣数	受入人数/年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	12人	短期 0人 長期 12人
	派遣人数/年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	64人	短期 55人 (オンライン留学15人) 長期 9人
海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	—	[18件]	大学間 10件 部局間 5件 その他 3件
国際シンポジウム・セミナー等 発表・開催数	発表者数/年	完成年度以降	15人	15人	56人	国際学会 56人 招待講演 0人
	開催件数(累計)	最終年度	15件	—	[12件]	

国・地域別海外連携機関



建国科技大学での中国語研修 (2/28~3/16)

大学間協定校である建国科技大学(台湾)での中国語研修に学生16名が参加した。



JICA青年研修事業 (11/30~12/27)

保健医療学部看護学科教員が主となり、仏語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした「地域保健医療プログラム」を行った。



評価 | A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 9月に3年ぶりとなる「産学合同シリコンバレー研修」を開催し、地域の企業人4名、学生11名(生産システム科学科7名、国際文化交流学科4名)らが参加した。
- 市民公開フォーラム「地域連携によりサステナビリティを世界に発信」を開催するとともに、産業界とのシーズ・ニーズのマッチングを図るため、全学部合同シーズ・ニーズマッチングシンポジウムを実施した。
- 8月の小松市の記録的豪雨により被災した地域を支援するため、公立小松大学ボランティアサークルのメンバーを筆頭に、学生・教職員延べ100名が災害ボランティア活動(10日間)に参加した。
- 3年ぶりに対面開催となった「第5回青松祭」では、学生実行委員会を中心に企画・運営し、模擬店や各サークルによるステージ発表、学科紹介などを行った。
- 「こまつ市民大学」では、公立小松大学を会場として提供するとともに、ものづくりや健康、語学、国際情勢など教員の研究分野に沿った講座を多数開講し、市民の学び直し、学び直しへの貢献を図った。
- 地域連携推進センターを中心にe-messe kanazawa 2022、Matching HUB Hokuriku 2022、北陸技術交流テクノフェアなどの産官学連携イベントに出展し、大学の研究紹介や地域連携事業のPRを行った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 新型コロナウイルス感染症の収束を機に対面方式の様々な活動を再開されたことは評価できる。引き続き、教育(授業・課外活動)・研究の両面から、地域連携を広く積極的に取り組むことを期待する。
- ◎ シリコンバレー研修は、地域の企業人と共に現地の環境はビジネスのあり方に触れることで、学生の将来のキャリア形成にも繋がる貴重な機会であると評価できる。
- ◎ 災害ボランティアへの参加は、参加者にとっても得られるものがあり、地域の連帯感を高めるとともに被災地域への大きな貢献につながった。
- ◎ 市内に空港を有し、来春には北陸新幹線小松駅が開業予定である。この立地を活かした国内外との交流の拡大や地域への貢献を一層進めていただきたい。

産学合同シリコンバレー研修 (Apple本社前) (9/11~9/17)

公立小松大学シリコンバレーオフィス(アメリカ カリフォルニア州)に学生と地域の企業人を派遣し、現地での特別講義、視察、グループワーク等を通じて地域の未来を考えるプロジェクトを形成することで、将来に渡る企業人と学生の人的ネットワークを構築する。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R4年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方 (指標)	達成年度	中期計画目標値	R4 目標値	実績	備考
市民公開講座 開講数 (再掲)	開講テーマ数 /年	完成年度以降	10 /年	10 /年	14	市民大学 11 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1
	教員参画数 /年	完成年度以降	20人 /年	20人 /年	21人	市民大学 18 市民公開フォーラム 2 ものづくり人材 スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 0
市民による 施設利用度 (再掲)	市民図書館 利用者数/年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数/年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数/年	毎年度	25件	25件	227件	中央 56件 (こまつ市民大学利用ほか) 粟津 171件 (運動場利用ほか) 末広 0件
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	—	[399件]	協力企業等 374団体 ランチ助成券 25店舗 学食ネット 2店舗 (ランチ助成券との重複2店舗)
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数/年	完成年度以降	20件	20件	43件	災害ボランティア 13回 お旅まつり 1回 ボランティアサークル 29回
	参加人数/年	完成年度以降	100人	100人	192人	災害ボランティア 62人 お旅まつり 27人 ボランティアサークル 103人



災害ボランティア協力 (8/7~9/21)

8月の小松市での記録的豪雨により被災した地域を支援するため、災害ボランティア活動に参加した。主に遊泉寺町、中ノ峠町、中海町での用水路や被災した家屋の土砂の撤去、家具等の片付け、ゴミ出し作業を行い、計10日間で延べ100名の学生が参加した。

第5回 青松祭 (10/22)

「一祭合祭 ~All together as one~」をテーマに、約3年ぶりに対面での開催となった。学生、教職員だけでなく、地域の方々や高校生など多くの方が来場した。



評価 | A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 博士課程設置検討WGが中心となって大学院博士後期課程設置認可申請の準備を進め、3月に設置認可申請書を文部科学省へ提出した。
- 教員の評価制度については、教員評価基準検討WGを立ち上げ、制度設計の協議を計画的に進めるとともに、評価制度を一部施行した。
- 全学FD・SD研修は、ハラスメント防止、心の病を抱える学生への対応、海外危機管理をテーマに年4回主催した。また、公立大学協会や大学コンソーシアム石川など外部主催の研修会への参加を促した。
- 出勤簿管理システムを導入し、労務管理の事務効率化を図るとともに、働きやすい職場づくりを推進した。
- 令和4年3月に制度上の完成年度を迎えたことを踏まえ、大学設置による地域にもたらす経済波及効果の測定を実施した。小松市への経済波及効果は4年間で104億100万円であった。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 大学院博士後期課程の設置により、学士課程から9年間の大学教育が完成する。博士後期課程で求められる高度な専門性と研究能力を養うことのできる教育研究環境の整備を計画的に図っていただきたい。
- ◎ FD・SDに関する継続的な取り組みや、年4回の研修実施は評価できる。中期計画の達成に向けて様々な角度・テーマによる実施が望まれるとともに、オンデマンド配信など、実施方法の工夫にも期待したい。

第4回FD・SD研修 (1/12)

公立大学協会中田晃事務局長を講師に迎え、内部質保証の考え方や認証評価制度の概要、理念についての研修を実施。教職員62名が参加した。



※ [] は、達成年度前であるが、R4年度実績として数値把握しているもの

数値指標の達成状況

項目	考え方 (指標)	達成年度	中期計画目標値	R4 目標値	実績	備考
業務改善実施件数	件数 (累計)	最終年度	40件	—	[42件]	
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	1件以上	4件	主催 4件

主な活動内容と成果

- 入学料や授業料等の学生納付金を確保するため、ホームページによる学生募集、オープンキャンパスでの集客、北陸三県・東海・信越地方への入学者選抜要項、大学案内等の送付や高校訪問などをはじめとする入試広報活動を計画的かつ積極的に実施した。
- 「公立小松大学基金への寄附のご案内」冊子の送付や、ホームページでの活用事例の紹介により、企業、団体、個人等からの寄附金の受け入れを促進し、教育研究等に役立てた。基金への寄附金の実績は計47件、5,139千円となった。
- 科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、科学研究費採択数：46件（実績）/15件（目標値）、その他外部資金獲得数：28件/5件となり、完成年度以降目標値を超える結果となった。

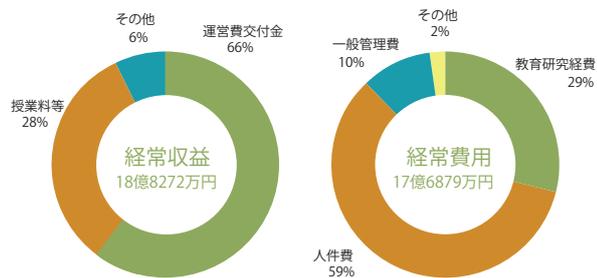
評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ オープンキャンパスの実施や高校訪問などの入試広報活動を計画的かつ積極的に実施し、その成果が志願倍率や自己収入額の実績に表れていることは評価できる。
- ◎ 基金への寄附金の増加要因を把握し、今後に繋げるとともに、卒業生への働きかけについても検討されたい。
- ◎ 自己収入額は順調に伸びている。科学研究費及びその他外部資金獲得状況も目標値を上回り、十分に評価できる結果となっている。

法人の経営状況



数値指標の達成状況

項目	考え方（指標）	達成年度	中期計画目標値	R4目標値	実績	備考
自己収入額	自己収入額／年	毎年度 (完成年度以降)	7億円以上	7億円以上	7.7億円	
科学研究費 補助金等獲得 状況（再掲）	科学研究費 補助金 採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	46件	新規 13件 継続 33件
	その他外部 研究資金 採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	28件	

評価 | A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、自己点検・評価委員会(令和5年1月より自己点検評価・内部質保証推進会議)及び年2回の評価室ヒアリングを実施した。
- 自己点検・評価委員会を「自己点検評価・内部質保証推進会議」と改め、内部質保証体制の確立及び抜本的な見直しを図った。
- 令和5年度に実施される一般社団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価の受審に向け、大学の内部質保証に関する提出資料の作成や事前相談など準備を進めた。
- 「広報室」を中心に、大学広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、ホームページの運用、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て! 公立小松大学」などの様々な媒体での広報活動を展開した。新たに広報室学生委員によるInstagramを開設したほか、受験生向けに、各学科の4年生が学科の魅力及び大学での学びについて語るショート動画を制作・公開するなど、デジタル媒体の強化を図った。

広報室学生委員Instagramの開設

学生目線での情報発信の強化を図り、大学や小松市の魅力をより多くの人に写真と動画で伝えるため、広報室学生委員のInstagramアカウントを開設した。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 内部質保証推進体制の見直し・確立への取り組みは評価できる。「自己点検評価・内部質保証推進会議」において、大学の内部質保証を検証できる資料の収集及び取りまとめを効率的に進めていただきたい。
- ◎ 雰囲気や特色が伝わりやすい動画でのPRや、学生のアイデアを活用した広報室学生委員Instagramの開設など、より親しみやすい方法での情報提供が行われた。これらの広報媒体を効果的に活用することにより、小松大学への関心を高めるアプローチにつながると評価できる。また、大学院での活動・活躍の様子にも焦点を当て、大学院の学生募集への効果を期待する。

大学をPRするショート動画の制作・公開

受験生(高校生)に公立小松大学に入学した4年後の未来をイメージしてもらえようなショート動画を制作し、大学公式Youtubeチャンネルにて公開。各学科の4年生が、学科の魅力および大学で学んでよかったことを1~2分で語る。



評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 個別施設計画(インフラ長寿命化計画)に基づき、粟津キャンパスの学生食堂の外壁の改修を行った。
- 保健医療学部や大学院のヘルスケアシステム科学専攻の学生や教員の研究環境を充実させるために、末広キャンパスの研究実験棟の建設を進めるとともに、こまつビジネス創造プラザに新たに大学院専任教員の研究室を配置するなど、必要な研究スペースを確保した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 大学院の設置による学生数の増加等に伴い、研究室も含めた設備の充実を計画的に図っていることは十分に評価できる。大学院学生による研究活動の活発化が期待されるため、ハード面での研究環境の整備を引き続き進めていただきたい。

評価

B

中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 同窓会員相互の親睦を図り、母校の発展に期することを目的に、公立大学法人公立小松大学同窓会を設立した。9月に設立総会を開催し、学長、事務局長のほか、役員および会員が出席した。
- 職員を対象とした定期健康診断やストレスチェックなど職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。
- 令和3年度の決算・業務について監事監査を実施するとともに、令和3年度の業務・会計処理について附属図書館及び保健管理センターに対し内部監査を実施した。また、公的研究費の交付金額が多い各学科の教員1名を選出し、公的研究費内部監査(リスクアプローチ監査含む)を実施し、法人業務はいずれも適正に実施していると認められた。

- 消防計画に基づき、自衛消防訓練や学生寮での避難訓練を3キャンパスで年2回実施した。緊急通報・安否確認システム「Safetylink24」について、新入生オリエンテーション等での説明及び年2回の配信訓練を行い、アプリの登録率及び回答率の向上を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取り組みが行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 同窓会の設立により、卒業生との交流を深め、大学の発展に寄与することを期待する。
- ◎ 緊急通報・安否確認システムの構築などが評価できる。今後、各種安全・防災関連情報とともに全学生への周知徹底・啓発・訓練活動のさらなる展開を期待する。

基本理念・教育理念

公立小松大学は、これまで地域で培われてきた教育資源である小松短期大学及びこまつ看護学校の施設設備や高い教育実績を礎に、これらを再編・発展させ、南加賀唯一の4年制高等教育機関として平成30年4月に開学した。

地域における教育、研究の中核的拠点として、以下の **基本理念** を掲げている。

- 地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成する大学
- 持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学
- 地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学

また、基本理念に基づき、以下の **教育理念** を掲げている。

- 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的な学びと組織的な教育
- 人間・社会・自然と科学技術の発展を総合的に捉える先駆的な科学教育
- 人間性豊かな市民、応用力のある専門職業人、グローバル人材を育成する地域と協働した教育

大学の学部・学科構成

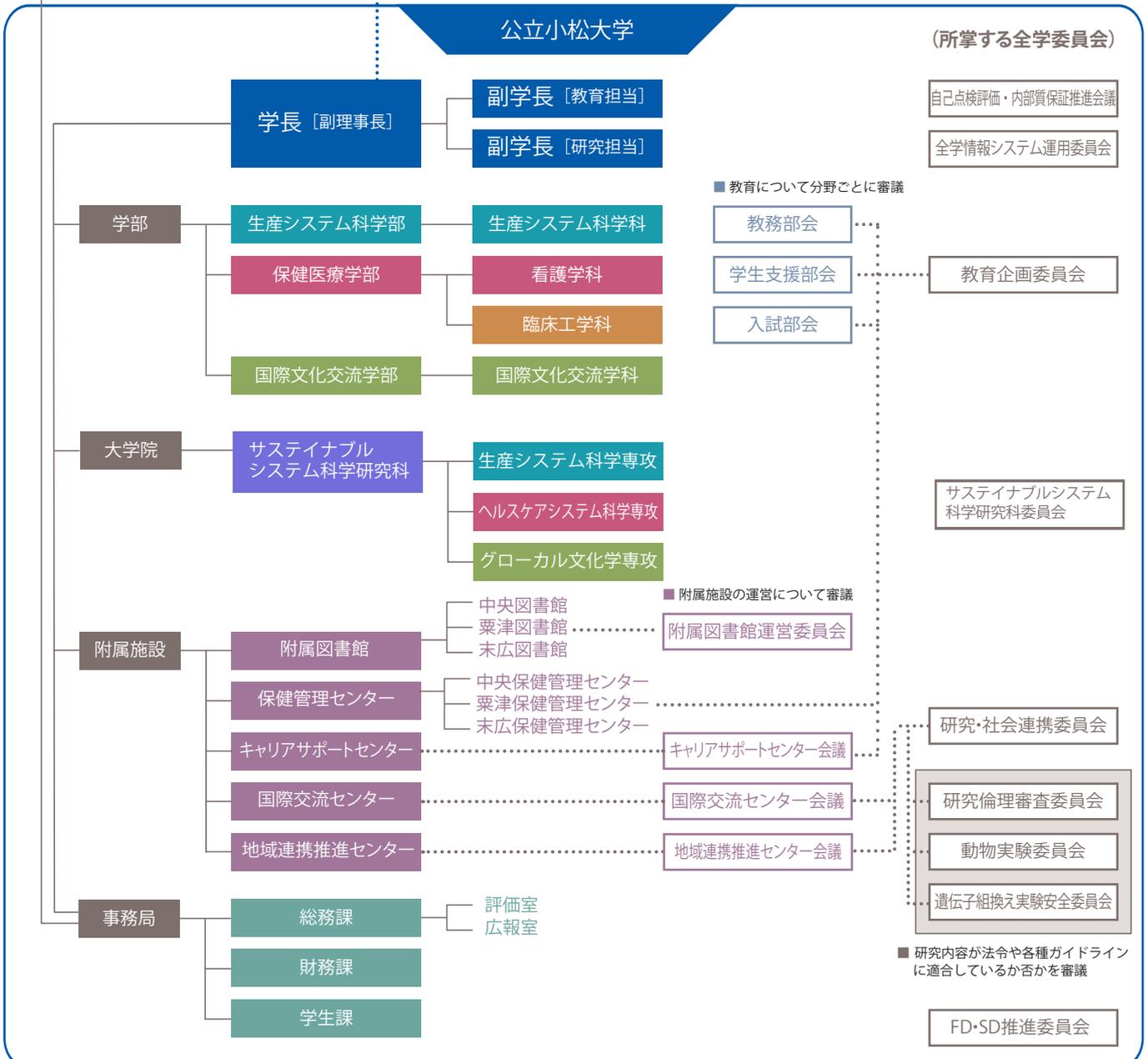
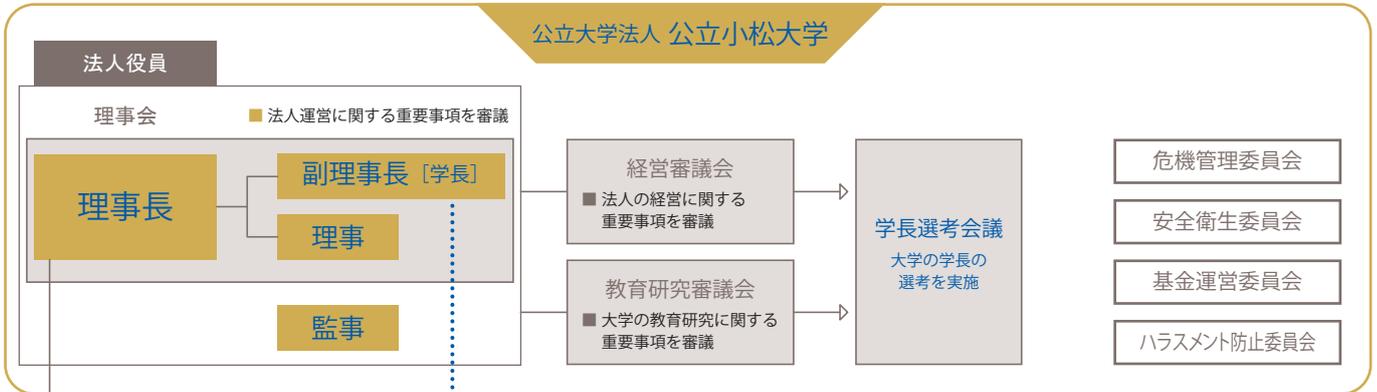
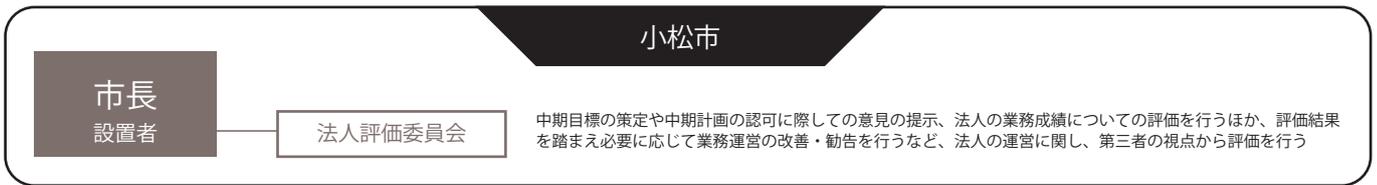
[単位:人]

学部	学科	入学定員	収容定員	現員 令和4年5月1日現在		
				男	女	計
生産システム科学部	生産システム科学科	80	320	312	25	337
保健医療学部	看護学科	50	200	19	185	204
	臨床工学科	30	120	57	71	128
国際文化交流学部	国際文化交流学科	80	320	55	267	322
合計		240	960	443	548	991

大学院の研究科・専攻構成

[単位:人]

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員 令和4年5月1日現在		
				男	女	計
サステイナブル システム科学研究科	生産システム科学専攻	15	30	14	2	16
	ヘルスケアシステム 科学専攻	3	6	4	0	4
	グローバル文化学専攻	3	6	2	1	3
合計		21	42	20	3	23



評価の基本方針

年度評価は、公立大学法人公立小松大学（以下「法人」という）の中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行う。なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取り組み状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

評価項目

項目別評価	小項目別評価	年度計画の最小項目として記載されている各事項の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	指標単位評価	年度計画の各数値目標の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	大項目別評価	小項目別評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における大項目ごとの進捗状況 大項目ごとに評価基準に沿って、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う
全体評価		項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況。大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う

小項目別評価 統括表

大項目	事業 項目数	評価					設定 平均値	
		5 年度計画を 大幅に 上回る	4 年度計画を 上回る	3 年度計画を 概ね実施	2 年度計画を 十分に 実施せず	1 年度計画を 大幅に 下回る		
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育に関する目標を達成するための措置	45	1 (2.2%)	24 (53.3%)	20 (44.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	7 (70.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.7
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③国際交流に関する目標を達成するための措置	5	0 (0.0%)	5 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
III	地域貢献に関する 目標を達成するための措置	12	0 (0.0%)	9 (75.0%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
IV	業務運営の改善及び効率化に関する 目標を達成するための措置	17	0 (0.0%)	15 (88.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
V	財務内容の改善に関する 目標を達成するための措置	11	0 (0.0%)	4 (36.4%)	7 (63.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.4
VI	自己点検・評価及び情報の提供に関する 目標を達成するための措置	7	0 (0.0%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
VII	その他業務運営に関する 目標を達成するための措置	20	0 (0.0%)	4 (20.0%)	16 (80.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.2
※ XII	余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
※ XIII	その他設立団体の規則で定める 業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
	合計	129	1 (0.8%)	73 (56.6%)	55 (42.6%)	0 (1.6%)	0 (0.0%)	3.6

※中期計画に大項目として記載しているXII、XIIIに係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

評価基準

評価区分	設定	評価基準	評価の目安
項目別評価	小項目別評価	5 年度計画を大幅に上回る 4 年度計画を上回る 3 年度計画を概ね実施 2 年度計画を十分に実施せず 1 年度計画を大幅に下回る	特に優れる若しくは顕著な成果がある 上回る若しくは十分な実施状況 実施している 下回る若しくは実施が不十分 特に劣る若しくは実施していない
	指標単位評価	S 年度計画を大幅に上回る a 年度計画を上回る b 年度計画を概ね実施 c 年度計画を十分に実施せず d 年度計画を大幅に下回る	達成率100%以上かつ顕著な成果がある 達成率100%以上 達成率80%以上 100%未満 達成率60%以上 80%未満 達成率60%未満
大項目別評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	小項目別評価の平均値が4.3以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が認める場合
	A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに評価委員会が「A」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合
	B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、さらに評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合
	C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、さらに評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合
	D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	小項目別評価の平均値が1.8以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると評価委員会が認める場合
全体評価	S A B C D	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる 中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する 中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価

地方独立行政法人	住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に行わせるため、地方公共団体が設立する法人。
公立大学法人	地方独立行政法人のうち、大学の設置及び管理を行うもの。公立小松大学の設置・管理は、「公立大学法人公立小松大学」が行っている。
評価委員会	地方独立行政法人法第11条の規定により小松市長の附属機関として設置され、中期目標の策定や中期計画の認可に際しての意見の提示、法人の業務成績についての評価を行うほか、評価結果を踏まえ必要に応じて業務運営の改善・勧告を行うなど、法人の運営に関し、第三者の視点から評価する。評価委員会の組織及び委員等必要な事項は、小松市公立大学法人評価委員会条例で定めている。
中期目標	法人が、6年間において達成すべき目標で、市長が定め、公立大学法人に指示するもの。
中期計画	中期目標に基づき、当該中期目標を達成するために公立大学法人が作成するもの。
年度計画	中期計画を着実に実行していくために法人が年度ごとに作成するもの。
グローバル	「グローバル (Global) : 世界」と「ローカル (Local) : 地域」を掛け合わせた造語。グローバル人材は、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できる人材を指す。
キャリアデザイン	自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。自分の経験やスキル、ありたい将来像についてを考慮しながら、自らの持つ能力を活かすための仕事、職務の形成を進める。
共同研究	外部機関から研究経費等を受け入れ、大学の教員等が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究や、大学・外部機関において共通の課題について分担して行う研究。
受託研究	大学が外部からの委託を受けて職務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの。
科学研究費補助金	文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会の事業。 すべての分野、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。
ファカルティ・ディベロップメント (FD)	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。
スタッフ・ディベロップメント (SD)	職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。「職員」には、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。
FD・SD活動	ファカルティ・ディベロップメント (FD) やスタッフ・ディベロップメント (SD) のための大学としての活動。
自己収入額	経常収益のうち、「授業料」「入学金」「検定料」等の合計。

Campus Map



中央キャンパス

[全学部・国際文化交流学部]

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10
 アクセス▶JR小松駅から徒歩約1分
 ※JR小松駅前の複合施設「こまつアズスクエア」2・3階



末広キャンパス

[保健医療学部]

〒923-0961 石川県小松市向本折町へ14番地1
 アクセス▶JR小松駅から小松バス市内循環線で
 「市民病院」下車(所要時間約7分) 徒歩約3分、
 JR小松駅から徒歩約23分
 ※南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接



粟津キャンパス

[生産システム科学部]

〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
 アクセス▶JR粟津駅から徒歩約12分
 ※南加賀地域のものづくり集積地の中心に位置

Evaluation Report of Komatsu University's Activities and Administration

問合せ

小松市役所 総合政策部 総合政策課

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地

TEL 0761-24-8037 E-mail : kikaku@city.komatsu.lg.jp

公立大学法人 公立小松大学 事務局総務課

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10

TEL 0761-23-6600 E-mail : soumu@komatsu-u.ac.jp